

【予稿集】

各ライフステージにおけるヘルスリテラシー向上のための

メディアドクター指標活用の試み

佐藤正恵*, 渡邊清高**, 北澤京子***, 三輪眞木子****

*千葉県済生会習志野病院図書室 **帝京大学医学部内科学腫瘍内科

京都薬科大学 *放送大学

*satomasae2017@gmail.com

近年、インターネット等で医療健康情報を気軽に入手できる情報環境が整うと同時に、受け取った情報を吟味して適切な選択を行うインフォームド・チョイスが重要になっている。筆者らは、海外で用いられている「メディアドクター指標」を用い、新聞等の医療に関するメディア報道のあり方を検討するワークショップを開催している。本発表では、各ライフステージにおける情報リテラシーとヘルスリテラシー向上の取組みを報告する。

“Media Doctor Japan” Index to Improve Health Literacy

Masae SATO*, Kiyotaka WATANABE**, Kyoko KITAZAWA***, Makiko MIWA****

*Library, Chibaken Saiseikai Narashino Hospital

**Teikyo University School of Medicine,

Kyoto Pharmaceutical University, *Open University of Japan

1. はじめに

日本は急速に高齢化が進行しており、ベビーブーマー世代が75歳の後期高齢者となる2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築と医療機関の再編成と役割分担が進められている [1]。

医療・健康情報の入手は、モバイル機器の普及によりインターネットを通じてより簡便になっており、受け取った情報を吟味し適切に選択するインフォームド・チョイスがより重要となっている。

しかし、日本人は識字率が高いにも関わらず、国際的な比較において欧米に比べヘルスリテラシーが低く [2]、特に「評価」「活用」に課題があるという報告がある [3]。

筆者ら(渡邊, 北澤, 佐藤)は、メディアドクター研究会 (以下 MDJ) において、メディアドクター指標を用いた医療・健康報道を吟味するワークショップを定期的で開催している。本発表では、

MDJ が行う各ライフステージにおける情報リテラシーおよびヘルスリテラシー向上の取組みを報告する。

2. メディアドクターとは

メディアドクターとは、2004年にオーストラリアのニューキャッスル大学の研究者らにより始まった活動 [4] である。新聞やWebサイトなどのメディアを通じて社会に発信される医療・健康情報の質を高めるための非営利活動である。その後、カナダ、米国、香港、日本などでも活動が広まった。

日本では東京大学医療政策人材養成講座の医療者やジャーナリストの有志により、2007年にMDJが発足した。その活動の特徴は以下の通りである。

日本における活動では、単に記事の内容につ

いて論評したり批判したりするというだけでなく「見出しの裏側 “Behind the headline”」にある背景や、報道事例をめぐって現状の到達点と課題、研究成果の意義と限界、報道の影響や改善点、患者・市民からみた医療・健康報道の望ましいあり方、などについて、定期的で開催する定例会においてさまざまな立場からなる参加者により議論を行うことが、海外にはない特色といえます。[5]

3. メディアドクター指標

MDJの活動では、オーストラリアの指標[6](表1)を日本の状況に合わせてカスタマイズして10項目の評価表(表2)を作成し、定期的に改訂を行っている。さらに、より分かりやすい表記で説明を加えた5項目の簡略版を作成することで、幅広い年齢層でのワークショップが可能となった。

表1: Media Doctor Australia rating Instrument

(メディアドクター・オーストラリアの指標)

1. Availability (実施可能性)
2. Cost (費用)
3. Disease mongering (病気の売り歩き)
4. Evidence (科学的根拠)
5. Harm (害)
6. Novelty (新規性)
7. Quantification of benefit (有益性の絶対評価)
8. Press release (プレスリリースへの依存)
9. Sources (情報源の明示)
10. Options (他の選択肢の有無)

表2: 日本版メディアドクター指標 Ver.4.0,2018

◆記事で扱う医療(治療・検査・薬剤・手技)について、1~10の質問に基づき、【満足=○】か【不満足=×】かを記入してください。記事の内容・位置付けから「言及の必要がない(評価の対象外)」と考える場合はNA (Not Applicable) としてください。
1 利用可能性 (Availability) 医療や薬剤について、現在利用可能か、どのような人の利用に適しているか、正確な情報を提供していますか?
2 新規性 (Novelty) 医療や薬剤について、どのような点が新しいか、正確な情報を提供していますか?
3 代替性 (Alternatives) 医療や薬剤について、既存の代替できる選択肢と比較していますか?
4 あおり・病気づくり (Disease Mongering) あおりや病気をつくり出す内容になっていませんか?
5 科学的根拠 (Evidence) 医療や薬剤について、科学的根拠の質を踏まえて書かれていますか?
6 効果の定量化 (Quantification of Benefits) 医療や薬剤の効果を適切に定量化していますか?
7 弊害 (Harms) 医療や薬剤の弊害について、正確でバランスのとれた情報を提供していますか?
8 コスト (Cost) 医療や薬剤の入手・利用などに必要な費用について述べていますか?
9 情報源と利益相反 (Sources of Information/Conflict of Interest) 記事は独立した情報源を用いており、利益相反についても明示していますか?
10 見出しの適切性 (Headline) 見出しは、内容を適切に分かりやすく要約していますか?

表3：日本版メディアドクター指標 2018 簡略版

評価項目	説明
1. 利用できるか	利用可能か、どのような人の利用に適しているか、正確な情報を提供していますか？
2. 選択肢	ほかの選択肢と比較していますか？
3. 科学的な根拠	効果について、科学的な根拠を踏まえて書かれていますか？
4. 不利益と費用	不利益（副作用や後遺症など）や費用について適切に述べていますか？
5. 見出しと内容	見出しは内容について適切に記述していますか？

4. 各ライフステージにおける取組み

4.1. 中学校での演習授業

2017年に東京都内の中学校で簡略版を用いて演習授業を行った。癌に関する新聞記事を読み比べ、ディスカッションを行った。通常の授業で新聞を題材に取り入れていることもあり、活発な討議や鋭い視点があり、癌についての知識や情報発信について新たな知見を得たとの感想があった[8]。

4.2. 有職者・図書館員向けのワークショップ

定例会のほか、医学情報サービス研究大会[9]の参加者企画に2013年から不定期に参加しワークショップを行っている[10]。また、各地域の公共図書館では、課題解決型サービスの医療・健康情報提供に関する図書館員研修の一環としての実施が増えている。

4.3. 高齢者向けの情報提供

病院内の患者図書館や患者会、講演会などで情報の見極め方のツールとして使用されている。

5. 効果と課題

各国のメディアドクター活動は休止が相次いでいる中で、MDJは10年以上にわたり活動を続けている。当初は医療者と医療ジャーナリストが中心であったが、日本の状況に合わせて指標を見直

し、さらにわかりやすい言葉で説明した評価表の簡略版を作成することで、幅広い年齢層での活用が可能となった。

医学的なバックグラウンドを持たない場合でも、身近な新聞記事やネットニュースを題材に、メディアドクター指標を用いて批判的に吟味し、正解のない課題を主体的に考える経験を通じて、ヘルスリテラシーの中でも情報の評価と活用の向上に効果が期待できる。一方で、定期的な指標の改訂と評価データの蓄積が今後の課題である。

注記・文献

- [1] “地域包括ケアシステム”. 厚生労働省.
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/, (参照 2019-5-21) .
- [2] Nakayama K. et al. Comprehensive health literacy in Japan is lower than Europe; a validated Japanese language assessment of health literacy. BMC Public Health.2015, 15:505.
<https://bmcpublihealth.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12889-015-1835-x>. (参照 2019-5-21)
- [3]. 中山和弘. “ヘルスリテラシーの測定と要因、健康との関連”. ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード. 福田洋，江口泰正編. 大修館書店, 2016, p.16-17.
- [4] Media Doctor.
<https://www.newcastle.edu.au/research-and-innovation/centre/chb/research/media-doctor>. (参照 2019-5-21)
- [5] メディアドクター研究会.
<http://mediadoctor.jp/>. (参照 2019-5-21)
- [6] 北澤京子. 「メディア・ドクター指標を用いた日英医学記事の評価」『薬剤疫学』Vol.13 No.2, 2008.12, p.71-78
- [7] (表2)(表3)はメディアドクター研究会作成。無断での引用・転載・複製を禁じます。メディアドクター研究会のウェブサイト (<http://www.mediadoctor.jp/>) 「リンク・著作権など」のページから引用・転

載・複製の許諾を得てください。

[8] “恵泉ダイアリー”.

<https://www.keisen.jp/diary/9196/>. (参照 2019-5-21) .

[9] “医学情報サービス研究大会”.

<http://mis.umin.jp/>. (参照 2019-5-21) .

[10] 佐藤正恵ほか. 公共図書館における医療健康情報サービスの質向上のためのメディアドクター指標活用の可能性. 日本図書館情報学会研究大会発表論文集（日本図書館情報学会）. 2018-12-17. 66:2018.